

今年から、

農業始めました！

舟形町で新しく就農された方に密着



新規就農者の きゅうり栽培

阿部 雄二さん（福寿野）



町農業ビジョン「新規就農者営農モデル」 少ない資本でも始められる、 きゅうり作り

きゅうり生産のポイント

- ①初期投資が少ない。
- ②1年目から収入を得られる。
- ③共同選果場を利用することで、選別・箱づめ作業をしなくてすむため、面積を拡大できる。

きゅうり作りに必要な整備内容

- ・15aのほ場
- ・支柱等資材
- ・動力噴霧機 等

167万円（税込）

きゅうり生産による一般的な収益

収穫量 15,623kg
販売額 442万円
面積所得 229万円

※舟形町での過去5年間の栽培実績平均値

なぜ、きゅうりで農業を 始めましたか？

農する前は、型枠大工をしていて独立も考えていましたが、将来を見据えると仕事に先細りを感じました。

きゅうりの生産は、栽培技術が必要で、今まで型枠大工として技術を高めてきた点で自分には合うと感じ、やってみたいと思いました。

最初は、アスパラガス栽培をしたいと思いますでしたが、収入を上げるまで年数がかかるというわれ断念しました。その点、きゅうりは、1年目から収入を得られることが魅力でした。

今年1年間を振り返って

業は一人だけで行なっていました。仕事量が見込めず、最盛期を乗り切ることができず、近所の方に手伝ってもらい、なんとか収穫を終えることができました。完全に一人で作業することは難しいと何度も思いました。

また、山科忠昭さん（富田第2）に指導を受け、要所を確認しながら作業をしました。農協にはきゅうり部会があり、特に他の人のほ場巡回はとても勉強になりました。そのかいがあつてか、病気もほとんどなく、無事に収穫が終わりま

農業は、町を支える基幹産業です。町では「儲かる農業」を推進するため、園芸作物栽培促進の取組みを進めてきました。

経営の複合化（水稲＋園芸等）や、新たに農業を始めたい人のために営農相談所による相談会を開催し、また、平成27年度からふるさと納税を活用した町単独の園芸補助事業を開始し、園芸作物を新たに栽培する人、面積拡大に取組む人を応援してきました。

その結果、平成28年度に2億6,100万円だった野菜の販売額（もがみ中央農協南部営農センター出荷分）は、令和4年度には3億5,100万円と1.3倍以上になり、事業成果が出始めています。今回は、今年から農業を始めた人を2名紹介します。

した。きゅうりは選果場を利用する共選と、自分が箱詰めする個選の2種類があり、出荷形態を選ぶことができます。虫や病気以外は規格外品もほとんど出荷できる点も助かりました。

これから就農を志す方へ

形町は農業を営む方への支援が充実しています。役場や農協でいろんなことを相談してください。実際にやってみると、手をかけた分だけきゅうりが良くなっていき、やりがいがあります。今はYouTubeにも栽培動画がたくさん出ているので参考にできます。

私は、夏はきゅうりの栽培、冬は除雪の仕事をする予定です。冬の間は何の仕事をするかを考えて、就農の準備をしていくといいと思います。



はじめて収穫したきゅうり